

NAVI

2007年12月1日発行（毎月1日発行）第24巻通巻286
昭和59年9月3日第3種郵便物許可 ISSN028960

クルマだけを見ず、クルマだけを語らない

December, 2007
780 yen

12

Logo Design = KEN OKUYAMA



スポーツカーの楽しみ方 乗って、見て、作って、訪ねて



ニッサンGT-R、その雄姿が見えた!
アルファ・ロメオ8Cコンペティツィオーネ試乗
スポーツカーの聖地を訪ねて

イッキ討ち シトロエンC4ピカソ vs トヨタ・ノア

試乗記 プジョー308 / MINIクラブマン

『NAVI』
読者のための
公式ウェブサイト
オープン!
www.internethnavi.jp



シャンゼリゼよ これがシトロエンの灯だ 新ショールーム「C42」をオープン

タイムマシンにお願い

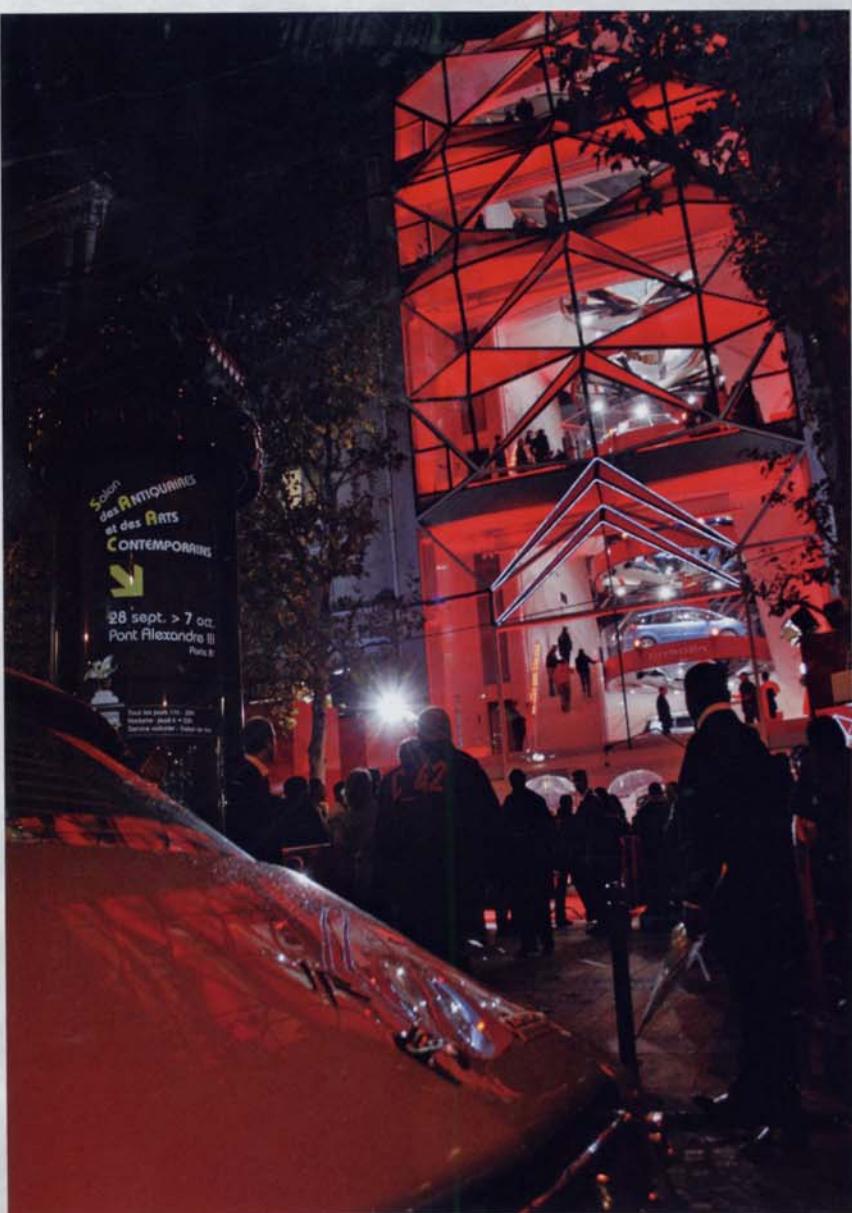
樹木をイメージしたという垂直8連ターンテーブルのタワー。1939年トラクション・アヴァン、1966年2CV、1969年DSが回る。車両入れ替えは、吹き抜けにパレットをチエーンで吊して行なう。

今を去ること80年前、シャンゼリゼにオープンしたシトロエンのショールーム。その歴史あるショールームが、このほど3年の工期をかけて完全に生まれ変わった。オープニングセレモニーに出席した大矢アキオが、その全貌をお伝えする。

文と写真＝大矢アキオ Akio Lorenzo OYA

もしもタイムマシンがあつたなら、個人的にダイヤルをセツトしたいのは1925年のパリである。なぜならエッフェル塔にCITROËNの文字が灯つたからだ。20万個の電球と継延長6000mの電線による、前代未聞かつ20世紀広告史に残る巨太広告である。

電飾は34年まで続けられたから、27年に大西洋無着陸横断飛行を達成したC・リンドバーグ



もそれを見たことになる。リンドバーグがパリに舞い降りたのと同じ27年、シトロエンはもうひとつ派手なプロモーションに打って出している。世界一その名を知られた商店街であるシャンゼリゼ通り42番地にショールームを構えたのだ。フォート方式を欧州で初めて採用して自動車生産を開始した19年から、わずか8年後のこどたつた。当時のシトロエンの、飛ぶ鳥を落とすが如くの勢いを窺い知ることができる。

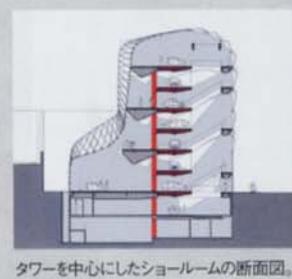
800トンのガラスの城

その80年の歴史をもつシトロエンのショールームが、この9月末、C42、という新たな名称を与えて生まれ変わった。リニューアルといったお手軽なものではなく、完全な改築で

ある。約50もの候補作から選定されたのは、仏人女性建築家マニュエル・ゴートランの案だった。合計800トンに及ぶグラスエリア全体で、シンボルマークの「ダブル・シェブロン」を表現するという、大胆なアイディアである。

常にアートとともに歩み、人にエモーション（感動）を与えてきたのがシトロエンの歴史であり、企业文化です」とG・ミシェル社長は説明する。

内部には地下も含め計8基のターンテーブルが垂直に設置さ





工期は3年が費やされた。国を代表する街路だけに、通行を妨げることは許されなかつたからだ。資材搬入は深夜1時から早朝6時間だけ行なわれた。

オープン記念には「天界から

翌々日の一般公開では、熱心なシトロエン・ファンの親連れられてきた子供が、懸命にコンセプトカーをカメラに收めていた。

一般公開初日、一番人気だったのはエンブランスに展示された2006年パリサロンのコンセプトカー「C-Metisse」。

れている。ビジターは階段をたどりながら、クルマを鑑賞する仕組みだ。

工期は3年が費やされた。国を代表する街路だけに、通行を妨げることは許されなかつたからだ。資材搬入は深夜1時から早朝6時間だけ行なわれた。

オープン記念には「天界から

始まつたヒストリー」をイメージし、最上階から歴史車両3台、次に現行車3台、そしてコレセプトカー2台が展示された。シトロエンは、これからも秘蔵車コレクションから選びだし、3か月ごとに展示替えしてゆくという。

新たな歴史の始まり

オープンニングセレモニーは、9月27日夜に行なわれた。夜8時、音楽とともに一斉にファサードに明りが灯され、ダブル・シェブロンがステンドグラスのごとく浮かびあがつた。シャンゼリゼ通り全体においては、25年ぶりの新築建物という。同時に、21世紀初のビル誕生である。

翌々日の一般公開では、熱心なシトロエン・ファンの親連れられてきた子供が、懸命にコンセプトカーをカメラに收めていた。

左) アメリカ人モダンアーティストC・マックマートリーによる動くオブジェ「トーテムモービル」。DSがロボットのことごとく変身しながら、高さ18mまでガオーッ(本当は無音)と伸びをする。

右) 「C42」を設計したマニュエル・ゴートランは1961年マルセイユ生まれ。「ファサードの造形は、日本伝統のオリガミも意識しました」。



エッフェル塔の電飾はもう見られない。でも、シトロエン史の新しい一頁が刻まれる瞬間をパリジャン、パリジェンヌたちと分かちあつたエモーションに、筆者は満たされていた。



間口は12m、高さは30m。ファサードのガラスはドイツ製の特注品。ここだけで組み立てに5か月を要したという。ちなみに場所は、地下鉄1号線'Franklin D.Roosevelt'駅を下車してすぐ前。



上) 公認クラブの面々も、愛車に乗って祝杯にやってきた。下) 一般公開初日に駆けつけたジュアン・ディディエ氏とその家族。トラクション・アヴァン、2CV、DSを所有する熱烈シトロエン党である。



1920年代末のショールーム風景。

